

Eureka IX

六年制通信 No.19 令和3年10月8日(金)号

手紙

今の人は手紙を書かなくなりましたね。ハガキも、ひょっとしたら一年に年賀状だけという人もいないのではないのでしょうか。手紙どころか、字を書くということ自体、少なくなりました。君たちは板書をノートに取るからまだ字を書きます。アルファベットも書きます。しかし大人になればなるほど、ペンを持つ機会がなくなっていくます。悲しいことです。昔の先生方は皆さん字がお上手でした。小学校の先生はもちろん、中学高校の先生方も板書の字はそのままお手本として通用するレベルでした。横文字も流れるような筆記体で、よく真似したものです。いつごろからでしょうね。先生方の字がへたくそになったのは。ゆとり教育の成果かなあ。

私は書齋にペリカン 800 とモンブラン 149 という万年筆を置いています。インクはロイヤルブルー。たまに手に取って詩の一節などを書いています。キーボードばかりでは字を忘れそうになるので、その予防にね。ちなみに校長室にはパイロットの名品「冬木立」があります。ふっふっふ、これ、自慢です。本来万年筆は横書き用ですから縦書き、ましてや漢字には不向きなのですが、ペリカン 800 は横でも縦でも書きやすい名品ですね。昔の青年は万年筆に憧れたものですよ。

昔の人はどのくらい手紙を書いたのでしょうかね。携帯どころか固定電話のなかった時代です。遙か昔は男は漢字ばかり、女はかなで手紙を書いた、そんな時代もありましたね。巻紙に筆で書いた手紙を私は一度だけ頂いたことがあります。その方は大正のお生まれの女性です。

夏目漱石の現存する手紙(書簡)が 2500 通前後ではなかったかと思うのですが、これについては面白い話があります。どこかの大学の先生でしたか、記憶が曖昧ですが「2500 通もの手紙を書いたとは、漱石は筆まめだった」と言ったというのです。こういうのを「昔のことを今の感覚で考える」といって、絶対に慎まなくてはならない発想なのです。バカなことを言うてはいけません。漱石ほどの文人が生涯に書いた手紙が二千や三千であるはずがない。おそらく何万通にも上るでしょう。手紙の作法がいつ頃出来上がったのかは知りませんが、相手が先生か、上司か、友人かあるいは女性か、親しさの度合いはどのくらいか、とにかく相手によって何通りもの書き分けを、昔の人は自然と身につけたことでしょう。羨ましいですね。

そう言えば、日本一短い手紙は「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」だと言われています。戦国時代の話らしいですよ。私が最も感動した手紙は、これは遺書なのですが、マラソンの円谷選手の「OOおいしゅうございました」のリフレインです。

さて、ひよんなことから多くの生徒諸君から手紙をいただきました。クラスの取り組みなんですね。嬉しかったですよ。サプライズでしたしね。手紙の書き方も調べたのでしょうか、いい経験になったのではないですか。拝啓から時候の挨拶、ちゃんとできていました。「校長先生はいかがお過ごしですか」には笑っちゃいましたけどね。廊下なんかで会ってるやん。ただ、宛名書きと最後のところの作法だけ、この場を借りてお教えしておきましょう。

先生に出す場合、「〇〇様」はいけません。例えば山田太郎という先生であれば、「山田太郎先生」あるいは「山田先生」です。私は自分の先生に出すときは、先生のフルネームに先生をつけて、さらにその横に「机下（「きか」と読みます）」と書きます。先生に直接お出しするものではありません、先生の書斎の机の下にお出しするのです、という非常にへりくだった表現ですね。君たちの年齢でそこまでする必要はありません。

もちろん鉛筆書きは失礼です。万年筆か黒のボールペンですね。今回、一人だけ万年筆を手にした生徒がいました。しかも私の好きなロイヤルブルー。

最後のところ、日づけの次の行の下に自分の名前を書きますが、本当は苗字ではなく名だけを書きます。藤井聡太という生徒が山田太郎先生に書いているのなら、「聡太」と書きます。そして次の行の上に「山田先生」（せいぜい「山田様」）と書くのです。ただし、今では「藤井聡太」とフルネームで書く方が自然ですね。女性の場合、名だけ書いてあると、おっちょこちょいが誤解するといけませんし。

今週のおすすめ

・阿刀田高 『ホメロスを楽しむために』（新潮文庫）

この人の古典ものと呼ばれるシリーズは有名ですね。ホメロスやダンテ、ガリバー旅行記、古事記、源氏物語、シェイクスピア、新約聖書、コーランなど、誰でも名前は知っている、しかし読まれない。古典というのはそういうものかもしれませんが、それらを楽しく解説してあるのが阿刀田さんの古典ものです。ホメロスも『イーリアス』や『オデュッセイア』を読んだ人は非常に少ないでしょうね。もったいない話です。しかし、君たちも岩波文庫で読むのはしんどいかもかもしれません。ですから阿刀田さんの本でいいので、古典に触れてみて下さい。本当は、阿刀田さんで面白いと思ったら原典を手にとってほしいのですがね。

ちなみに、私はこの人の『夢の宴』も好きですけど、君たちには『怪談』をお勧めします。『怪談』はラフガディオ・ハーンの伝記、小泉八雲ね。ただし、古典もののような構成ではなく小説になっています。大変面白いし、ハーンに対する予備知識も必要ありません。夏目漱石が東大で英語を教える、その前任者だったハーン。作品を読んでみようという気になりますよ、きっと。ハーンでは『耳なし芳一のはなし』や『雪女』が有名でしょうが、知られざる名品『守られた約束』は私の父の好きな作品でした。命に代えて男の約束を守る話です。昭和一桁は皆好んだようです。私は昭和30年代ですが、この話が好きです。感覚が古いんでしょうね、きっと。

BGMは 桜田淳子の グッドラック・アンド・グッバイ でした…。